

視察調査報告書

委員会名	経済建設常任委員会
参加者	委員長 原田 範次 副委員長 野本 篤 委員 鈴木 雅子 杉浦 久直 小田 高之 加藤 嘉哉 小木曾 智洋 畔柳 敏彦 柴田 敏光
視察日時	令和2年1月23日(木) 10:00～11:30
視察先・概要	岐阜県飛騨市 人口：24,704人 世帯数：8,898世帯 面積：792.53 k m ² 特記事項：住みよさランキング2019(東洋経済)総合40位 (安心34位、利便333位、快適421位、富裕308位)
視察項目	地域商社の取り組みについて
視察概要	<p>1 会社概要</p> <p>株式会社飛騨の森でクマは踊るは、2015年5月25日に設立し、森林事業(木製品加工販売) 交流事業(合宿滞在) 地域事業(カフェ運営)を行っている。売り上げは2019年12月期で1億1千万円。</p> <p>2 設立経緯</p> <p>2014年1月に、飛騨市企画課から株式会社トビムシに、地域資源活用調査業務を委託し、同年5月、同じく地域資源の活用による商品開発及び販売プラットフォーム構築業務を委託した。同年10月に、株式会社トビムシから飛騨市執行部に対し委託事業成果報告をするとともに、株式会社ロフトワークと共同で新事業体の提案を実施した。同年12月、飛騨市、株式会社トビムシ、株式会社ロフトワークの3者共同で法人設立を決定し、2015年3月に3者による株主間協定を締結、同年5月25日に株主会社飛騨の森でクマは踊るを設立した。</p> <p>3 主な事業経過</p> <p>2015年6月に事業拠点となる旧熊崎邸を取得し、2016年4月に「FabCafe Hida」をオープンした。これは、飛騨市が総務省地域経済循環創造交付金の採択を受け、地元金融機関融資と合わせて、リノベーション及び備品購入等の初期投資を実施し、行っている。同年10月には、飛騨市が内閣府加速化交付金による広葉樹の資源量調査・モデル林施業等を実施した。</p> <p>2017年4月には、飛騨市が林業振興課を新設し、林業担当課が設置された。同年8月からは、FabCafe Hidaにおいて林業体験宿泊プランをスタートさせ、都市農山漁村交流活性化機構「農林漁業体験民泊」に登録した。同年は初めて単年度黒字化となった。</p>

	<p>2019年12月には、東海農政局のディスカバー農山漁村の宝において優良事例に選定された。</p>
<p>所 感</p> <p>視察しての感想や岡崎市への提言など</p>	<p>・飛騨古川は年々人口も減り、にぎわいも少ないことから、このままではいけないということで、地方創生の流れの中、外部からの知恵やノウハウを活用することにした。飛騨市の森林率は90%を超えるが、現在では安い輸入材に押され林業は盛んではない。少ない林業もチップ用に小径の広葉樹を切り出すだけ。加工場がないので市外が恩恵を受ける。古くから木工の町でもあるが、使用するの安い輸入材が多いとのことであり、そうしたかみ合わない状況の調整役としての取り組みであった。海外の職人やデザイナーや木工好きな人など多くの人に関係してもらい、小径の広葉樹でも活用できる商品を研究して、もともとある資源や技術を生かし牽引している。今回お話を聞かせていただいた場所も、古民家をリノベして、多方面から関係する人たちの交流拠点としてのカフェであり、宿泊施設となっていた。それぞれの状況に合った取り組みが必要である。飛騨の計画をそのままというわけにはいかないが、これからの岡崎市の中山間地を興すべき参考となる取り組みであった。</p> <p>・トビムシは全国5カ所で事業展開。飛騨市では、ロフトワークとともにFabカフェを開いて、そこに宿泊施設、工房をあわせ持ち、地域住民や地域企業とつながりながら1億1千万円の売り上げを上げている。岡崎市で導入の可能性については、まず、地域の特性と森林の特性、社会資源を十分に調査することが必要。すぐそばに大きな都市が控えているということも岡崎市の特徴だと言われたが、それを市場と見る、あるいは治水上の守るべきものと見る立場が求められると思う。岡崎市では、森林組合に次々と若い人が就職しているとのこと。岡崎額田の合併の目的に、水源から上水道の一元管理ということがあった。そのことを第一とした森林管理が必要だと考える。</p> <p>・飛騨市における地域商社「飛騨の森でクマは踊る」が、本市の額田地域で活動を開始しているトビムシとの関連があるとのこと、本市の今後の森林整備、木材利用等に関する視点を変えた取り組みを興味深く視察した。当初、山間地域にわけ入った場所での開設を想定していたものが、中心部での古民家での開設となったことは、ある意味ですごく成功した要素ではないかと感じた。本市での今後の地域商社設立の取り組みが、川上と川下をうまく結びつけ、地域の循環による自律的な林業の再生につながるようにしていくには、どうした新規要素が必要となるのか、森林が育つにはとても長い時間が必要となるが、息の長い取り組みとなるよう見ていきたい。</p> <p>・林業の再生、山主への還元という目的のために「カフェ」を主体とした取り組みに至った長い戦略ストーリーの構築ビジョンは、拝聴しつつワクワクするものがあった。今後、地域商社の設立が見込まれる本市にとり、地元や直接のステークホルダー以外の市民の方に、どのように理解、賛同を得られるかは大切となる。</p>

・官民共同事業体として、飛騨市、株式会社ロフトワーク、株式会社トビムシにより、飛騨市の広葉樹のまちづくり事業を初めとして、カフェ、地域資産としての森林に光を当てることにより、持続可能な地域の実現を目指して、森林の施業管理、森林資産の生産・加工販売を初め、マーケティングの企画、実施を支援するなど、多岐にわたる事業を展開している。株式会社トビムシが、本市額田エリアにおいて事業を進めているとのことなので、非常に楽しみにしている。

・通称ヒダクマは設立以来、森林事業と交流事業、地域事業を軸に、3年で単年度黒字化し、2019年12月期にて1億1千万の売り上げを計上するに至っている。林業再生ノウハウを持つトビムシと、ロフトワークが持つクリエイティブネットワークがうまくマッチングしている。本市も市域の6割が森林であり、林業の活性化は大きな課題の一つである。林業を森林事業だけでなく、異業種とのマッチングにより、付加価値を与え、交流事業、さらに地域事業へと発展させるには、既存の凝り固まった林業に対する認識を大きく変換させ、大胆な発想の転換が必要である。現在、本市においても行われている株式会社トビムシによる調査業務から大胆な発想による異業種マッチングにより、森林活用から林業の発展へと期待するところである。

・飛騨の森は一般的に建築材に不向きといわれる広葉樹が多く、いわゆる雑木の森であるそうだ。“ヒダクマ”は曲げ木や組木などたくみの技術と現代のテクノロジーを掛け合わせて樹種も模様や色、質感など個性的な商品を企画開発している。ヒダクマ内にはFabCafeを開設。これは、喫茶店と作業工房、宿泊施設の一体的施設で、コンセプトとしては、コーヒーを飲みながらオープンなスペースで3Dプリンターやレーザーカッターなど木工機械をそろえ、地域の木工職人、世界中の建築家、デザイナーや旅行者が交流をしながらものづくりができる拠点であり、実績が多くある。アイデアをすぐに形にできることが魅力であると考えられる。一般の方はコーヒーを飲みながらものづくりの光景を目の当たりにして、ものづくりに興味を持ってもらえるきっかけづくりにもなっているようである。また、ヒダクマは広葉樹をふんだんに使ったオフィス家具のデザイン、制作まで、ワンストップでプロデュースをしている。販路についても、大手家具店や木以外の産業との連携も進めている。今回視察したFabCafeのように、誰でも気軽に立ち寄り、木のことに興味を持ち、ひいては、木を活用できるファンを拡大できるという利点がある。

・山を守る、山の資源を活用するという一方で、民間と行政が協力をしていかななくては、今後山は荒れてしまうことが心配される。飛騨市のように人を呼べる内容、また地域密着で行うことで山の資源への関心も高まるのではないかと考える。また、宿泊も可能な施設は、空き家を利用してリノベーションを行い、海外からの研修等も受け入れることが可能となっている。本市も広大な山に囲まれる土地柄、参考とすることを考えていくべきである。

委員長の総括	<p>飛騨市は、面積792.53平方キロメートルの92%を山林が占める。材木の価格低下が続き、林業の衰退に歯どめがかからない。</p> <p>株式会社飛騨の森でクマは踊るは、実にユニークな社名で、その活動も従来の延長ではなく、新たな発想が随所に取り入れられている。</p> <p>本市と額田町において同様な状況であるが、同様の活動は無理であり、何が本市において事業化できるか、第三者の発想を大切にしながら、民間の行動力を導入する。こうした受け皿づくりを額田地域が望んでいるか、調査、議論をしたい。</p>
--------	--